

# 小型シートを考える

小川 義博

2015年2月、年金生活者の小遣いには高額な普通切手帳を割り切れぬ思いで求めた。2種の小型シートのために浪費を強いられたような気分がまだぬぐえないで残っている。ふと、切手帳、小型シートをじっくり整理してこなかったことも考えて、この機会に小型シートをすこし検討し、多少なりとも気分を逸らせればと考えた。この文を書いている間に更にバカげた信じられない切手帳に名を借りた小型シートの発行を知った。爆買いをしていただける外国人の嗜好に合わせた北斎も嘆くであろう、金ぴかの8000円という切手帳とは名ばかりの2枚の小型シートである。営利目的発行に邪魔されない今のうちにと、意を強くし記した次第である。

小型シートとは何であろうか。切手研究用語集（郵便文化振興協会）には「1枚の切手、あるいは数枚の切手を組み合わせ小型の《シート》として特別に印刷したもの。わが国では1934年(昭和9)4月に発行された逓信記念日制定記念の小型シートが最初。郵政当局が「組合せ郵便切手」と呼ぶこともあった。スーベニア・シート。」と記され、更に、スーベニア・シートは「記念切手発行と同様に記念に発行された〈小型シート〉のことで、耳紙に文字や図案が入っているものがほとんどである。」と記されている。最近、多くの変則的なシートを目にするとすべて小型シートになってしまう。そこで、日本切手カタログ2種で調べたが、かえって混乱を増してしまう結果であった。2種のカタログでシート記載の違いを整理すると表1のようになった。ここでは慣れ親しんだ分類であること、グリーティ

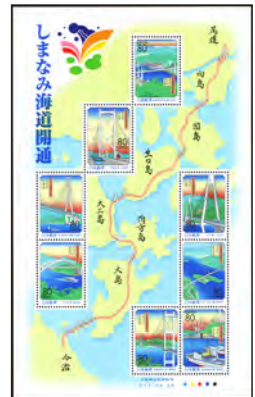
表1 カタログによる小型シートの分類の違い

通称	種類	発行年	切手商組合発行カタログ	郵趣協会発行カタログ
年賀昭和11年用	年賀切手	1935年	小型シート	20枚シートと記載
貯金切手	普通切手	1941年	小型シート	シート自体記載なし
しまなみ街道開通	ふるさと切手	1999年	小型シート	シート自体記載なし
高齢者向け切手	特殊切手	1996年	記載なし	グリーティング切手として小型シートと記載
グリーティング切手	約36種		記載なし	5種類各1枚構成シートを小型シートと記載 一部10種も小型シートと記載
レターシール付き 普通切手 ファミリーペーン	普通切手	1994年	ファミリーペーン	小型シート

郵趣協会発行カタログのふるさと切手ページに誤りの小型シートの記載あり除外した



高齢者向け切手は小型シートで、年賀50年は小型シートにあらず



しまなみ海道開通切手シートサイズは普通であるが小型シート

ング切手の扱いに違和感があるので切手商組合発行カタログの分類で検討していきたい。ただし、切手商組合発行カタログで小型シートと記されたのは逓信記念日制定記念のみであり、他はカタログ番号右に S/S と記されたものを小型シートとした。また、国際切手展2011の売価1200円(500円切手2枚)シート、および2014FIFAブラジル大会記念の3種のシートにはS/Sは記されていないが小型シートとし、今回の普通切手シートと合わせて整理、検討対象にした。整理すると今回の切手帳2種を含めて217種が発行されている。この217種は2つの考え方で小型シートと分類されているようである。①所定の発行枚数を印刷するシートとは別に、少数種類、枚数で印刷されたシート。②他に見られない意匠の切手が印刷された小型のシート。そのほか目打ちの有無等では特に考慮なくとも①で分類できるようである。しかし、

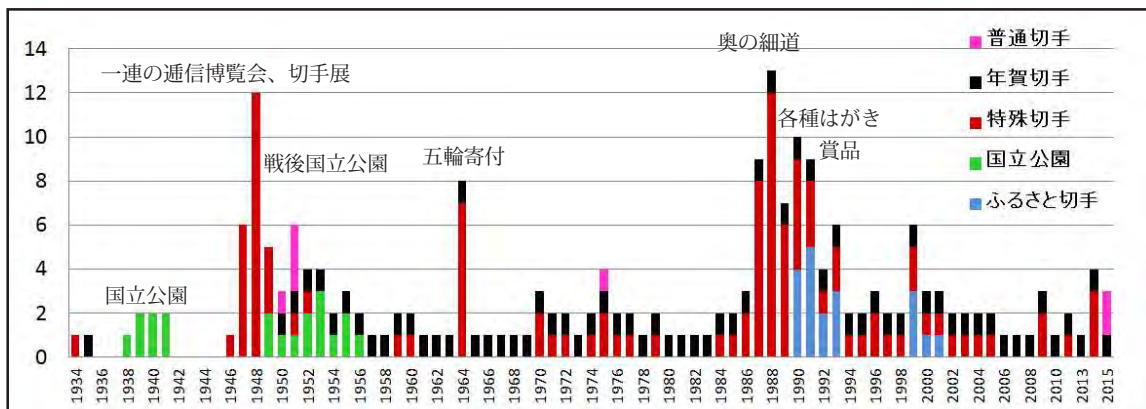


図1 小型シート発行の推移

説明がつかないものもあり、意匠、形状で決めていく方向で良いのではとも考えたくなる。

切手の種類別では小型シートの本来の姿である記念切手と同時に発行したものが多く、次いで65年間も発行され続けてきた年賀切手シートである。この年賀シートが景品として続いていることは他国に例を見ないものであろう。

次に、小型シートの発行の推移を示したのが図1である。1934年芦ノ湖航空切手4種で通信記念日制定記念として初めて発行された小型シートからばらついた発行推移の中、終戦直後、五輪開催、切手乱発初期の三時期に多く発行されていることがわかる。

特殊切手に限って、発行内容別にその割合を示したのが図2である。注目せざる得ないのが奥の細道小型シートである。発行数は国立公園切手の全小型シート数と同じである。シリーズ40種の切手すべてを20枚の小型にしている。この小型シートの発行目的、理由は何であった

のか、疑問を持たざる得ない。時の総理が俳句集を出すまでの俳句好きであったからなのであろうか。

内容分類で切手展・趣味週間、通信博、郵便事業、そしてふみの日を郵政関係とすると36%になり、多少、発行者の手前味噌的な小型シート発行の感を受ける。このようにみると、今後も小型シートは郵便・切手展関連、五輪・万博等の世界的催し物、そして皇室関連の3つの記念切手が主になっていくのであろうが、加えて営利目的発行を危惧せざるを得ない。

次に、小型シート構成を見ると表2のように1～20枚構成と幅がある。一部、例外を除き2枚を主として5枚までの切手で構成されており、10枚以上のものを小型シートと位置付けるかは疑問があろう。発行形状を見ると表3のように国立公園小型シートが半数近く無目打ちであり、他の小型シートはほとんどが目打ちありで発行されていた。無目打ち小型シートは1989年の奥の細道小型以来発行されてなかったが、今回の高額普通切手で四半世紀ぶりに発行されたことになる。次に、タトウ等の有無でも国立公園小型はすべてタトウに入れられて発行され、他は万博、五輪、ご成婚に例外的

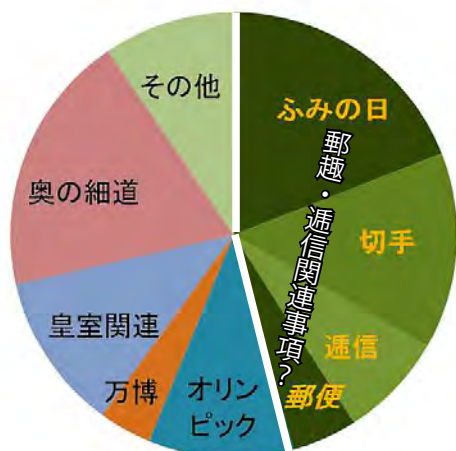


図2 発行内容別特殊切手小型シート発行割

表2 小型シート構成する切手数

切手数	ふるさと切手	国立公園	特殊切手	年賀切手	普通切手	総計
1			17		5	22
2	1	7	60	38	2	108
3	10		12	5		27
4	7	13	8	20		48
5			6	2		8
8	1					1
10			1			1
15			1			1
20				1		1
総計	19	20	105	66	7	217

表3 小型シートの発行状況

種類	発行数	目打ち		売価表示		
		なし	あり	タトウ表示	シート表示	表示なし
特殊切手	105	43	62	* 6	10	89
年賀切手	66	1	65			66
国立公園	20	9	11	** 20		
ふるさと切手	19		19			19
普通切手	7	1	6			7
合計	217	54	163	26	10	181

\* 台紙、半透明袋売価表示はタトウ表示に含む  
 \*\* タトウ1部に2枚の小型シートの発行あり



今回の小型シートより売価が約3000円と高額であったと考えられる通信記念日制定記念小型シート

に発行された感である。更に、売価表示と売価について、売価表示はタトウ付き小型の場合は表示されるが、シートのみでは額面より高い場合表示されるが、非常に少ない。売価を整理すると表4の様になり、額面より50%以上高い売価であるのは終戦直後に発行されたタトウなしでの売価表示ある郵便開始75年、日本国憲法の2種の小型シートである。価格としては今回の2000円小型シートが最高額でなく、貨幣価値の点からは、最初に発行された通信記念日制定シート77銭であろう。1934年の郵便料金(はがき1銭5厘)から換算すると約2700円になり、発行枚数が2万枚というのも理解できる。

表4 切手種類別小型シートの売価

小型シート 売価	額面販売	約額面+ 額面 10%	約額面+ 額面 20%	約額面+ 額面 30%	約額面+ 額面 50%	額面×2	賞品	賞品か 額面販売	入場券付 ・切手帳	合計
ふるさと切手	5						4	10		19
国立公園		5	7	8						20
特殊切手	89	3	3	1	1	1	6	1	1	105
年賀切手	1						64	1		66
普通切手	5								2	7
合計	100	8	10	9	1	1	74	11	3	217

珍しいタトウと考えたいものがある。1950年のトラ年賀小型シート用に郵政省が有料でタトウだけを発行したものである。図4のように日専カカタログに記載された、8頁のものであり、今回の8000円小型シート切手帳より手の

FDG(N5, 寄高)		50,000
N5A	並製多色刷り(売価10円)	4,000
専用タトウ	木版(売価50円)	6,000
(50.3.1)	並製多色刷り(非売品)	7,000

年賀切手の小型シートは、お年玉つき年賀はがきの末等賞品として作られた。一般販売されていない。ただしN5Aの専用タトウは別売り。

1950年年 郵政省発行専用タトウの日専記述部分



専用タトウ 1P/8Pの意匠



専用タトウ 3P/6Pの意匠 2P 7Pは無地



専用タトウ 4P/5Pの意匠 シートは別

図4 木版専用タトウの内容 表紙と裏表紙



込んだものである。

また、戦前の国立公園小型シートのタトウには戦後の小型シートにある公園説明以外に、天皇の歌、古代の文書等が載せられ、また、英語ではなくフランス語が使用されているのが時代を反映していて興味深い。

発行枚数については公表されている 129 種を整理する表 5 のようになる。注意されるのが賞品として発行された小型シートの多さである。年賀はがき以外に 1986 年から 1989 年にかけてカモメール、サクラメールの賞品として発行された、ふみの日、切手趣味週間の小型シート 6 種と、年賀はがき 4 等賞品として 1991 年から 1993 年に発行されたふるさと切手 9 種の小型シートと年賀小型シートと合わせてその多さに驚かされる。博覧会、皇室関連の小型シートが多く発行され、それに関連して年代によってかなりの違いが生じている。

表 5 発行内容別小型シート発行枚数

発行内容	種類	発行枚数		
		平均	最大	最小
博覧会	4	838	1300	350
皇室関連	12	726	2000	15
五輪関連他	11	304	1500	130
その他	16	215	1100	3
奥の細道	20	175	200	150
ふみの日	16	119	200	60
郵政関連	25	106	800	2
ふるさと切手	5	73	150	38
国立公園	20	16	30	4
全体	129	214	2000	2

以上、小型シートを整理検討して感じるのは、発行に対する明確な考えがあるのかないのか、あるなら、どこまで貫かれているか残念に思われる小型シートの存在である。奥の細道シリーズの多くの小型シート、1989 年から 1993 年にかけてのはがき販売促進に利用されたふるさと切手等の小型シート、そして最近の高額小型などである。また、カタログ上でも小型扱いをぜひ統一してほしいものである。

### 諸外国の小型シート

このようにわが国の小型を整理してみて、諸外国の小型の発行状況を知りたくなった。しかし、どう調べれば小型シートの発行状況がわかるか悩んだ。常識的には切手と同じく SCOTT を見ればよいのだが、日本の整理の仕方とは異

なっており、これがかなり難しいことがわかった。日本の小型シートがどのように表示されているか整理したのが表 1 である (SCOTT2006 年版)。

画像から整理できるものでなく、老眼にはやさしすぎる細かい文字表示から判断せねばならないのに加え、表示内容も異なり、明確に Souvenir Sheet と表示されているのは半数にも満たない。このような理由から SCOTT を利用するのはあきらめ、UPU のサイトの国、地域の発行切手リストを洗い出して整理した。

表 6 日本小型シートの SCOTT での表示

表示内容	数
Imperf.,pair	1
Issued Sheets of 切手数	1
miniature Sheet of 切手数	3
Sheet of 切手数	28
Sheet of 2 lottery prize	74
Souvenir Sheet	86
Souvenir Sheet 画像表示	5

このサイトでは Souvenir Sheet という表示はなく、『miniature sheet of 切手数、デザイン数』と表示され、シート余白に図柄が印刷されたシート、多種類切手構成シートはすべて miniature sheet として表示されている。この表示ではわが国の 2013 年発行 431 種切手のうち miniature sheet でない sheet で発行された切手は年賀切手 2 種だけであった。この表示に従い 30 の主な欧米諸国と地域の 2002 年～2014 年までに発行された切手と miniature sheet 発行数、および miniature sheet に印刷された切手数を整理したのが次ページの表 7 である (UPU の記録範囲で整理を行ったことに厳に留意いただきたい。30 の国と地域で約 1500 種の miniature sheet。ドイツ、オランダ、アイルランドは記録なし、わが国は前述の理由で除外)。

まず、発行される切手に対してどのぐらいの頻度で miniature sheet が発行されているかを見ると、平均で 6.0% と約 20 種切手が発行されると miniature sheet がその中に含まれているという感じである。切手発行数と miniature sheet 数の相関係数は 0.87 と高く、切手を多く発行すれば miniature sheet の数も多くなるという常識的な結果がみられた。強いて言えば、

表7 miniature sheet 発行状況とシート印刷切手数

国名	期間	発行切手数	発行シート数	シート割合	構成切手数			
					最大数	最小数	平均	S D
アイスランド	2002-2013年	402	26	6%	5	1	1.8	1.1
アメリカ	2002-2012年	1632	43	3%	40	2	12.2	6.7
イギリス	2002-2014年	1678	51	3%	10	4	4.6	1.5
イタリア	2003-2014年	917	29	3%	12	1	4.1	3.4
オーストラリア	2002-2014年	1508	77	5%	10	1	4.4	2.4
オーストリア	2002-2012年	670	39	6%	10	1	2.9	2.2
カナダ	2002-2014年	976	97	10%	8	1	3.4	1.6
クロアチア	2003-2014年	597	29	5%	8	1	1.9	1.5
スイス	2002-2014年	635	22	3%	5	1	2.2	1.4
スウェーデン	2002-2013年	694	24	3%	8	1	2.6	1.5
スペイン	2002-2014年	1273	113	9%	16	1	2.6	2.3
スロバキア	2002-2014年	347	29	8%	6	1	1.8	1.3
チェコ	2002-2014年	472	23	5%	5	1	2.4	1.5
デンマーク	2002-2014年	467	36	8%	8	1	3.3	2.1
ニュージーランド	2002-2014年	1222	88	7%	26	1	6.5	5.8
ノルウェー	2004-2012年	553	15	3%	3	1	2.1	0.6
ハンガリー	2002-2014年	1274	119	9%	25	1	5.5	6.4
フィンランド	2002-2012年	616	49	8%	8	2	3.8	1.6
フランス	2002-2014年	2404	147	6%	14	1	5.3	2.9
ベルギー	2002-2011年	1137	93	8%	25	1	5.5	3.8
ポーランド	2002-2012年	609	46	8%	13	1	3.2	3.1
ポルトガル	2002-2014年	1615	152	9%	12	1	2.1	2.1
モナコ	2002-2013年	597	23	4%	8	1	3.3	2.1
リトアニア	2002-2012年	438	24	5%	6	1	3.0	1.5
リヒテンシュタイン	2002-2011年	335	6	2%	8	1	5.2	3.0
ルーマニア	2002-2014年	1381	125	9%	12	1	2.4	2.0
ルクセンブルグ	2002-2014年	482	14	3%	9	1	2.9	2.1
* グリーンランド	2002-2014年	269	2	1%	2	2	2.0	0.0
* フェロー島	2002-2014年	412	38	9%	10	1	5.6	3.3
* 南極豪州切手	2008-2014年	79	9	11%	5	2	4.1	0.9

ポルトガル、カナダ、スペイン、ベルギー、ハンガリー、ルーマニアの国々がやや miniature sheet の発行が多い国と位置付けられそうである(図6)。ここで気になるのがシール切手(self adhesive miniature sheet) の影響であるが上記6ヶ国ではカナダに多く発行がみられるだけで影響してないと考えたい。加えて miniature sheet の発行数の推移をみると集計年の幅が統一されてなく正確さに欠けるが各年の平均発行数をみると図7の様に今回の対象国と期間の中では徐々に増加していることが見られた。

次に、1枚の miniature sheet を構成する切手の数をみると、1種から4種が大半であるが、年々種類の多い miniature sheet が多くなってきているようである。各国別に1枚の miniature sheet を構成する切手数の幅、平均、

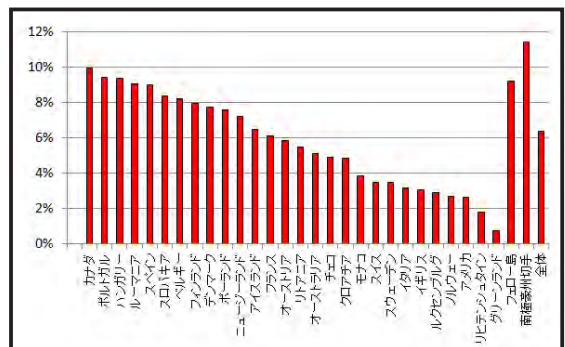


図6 対切手 miniature sheet 発行割合国別比較

バラツキ・標準偏差(SD)を表7に示したが、比較しやすいように平均切手数と切手数のバラツキをグラフにしたのが図8である。

平均切手数が多い国がSDが大きくなるのは当然であろうが、これはUPUが普通に小型シー

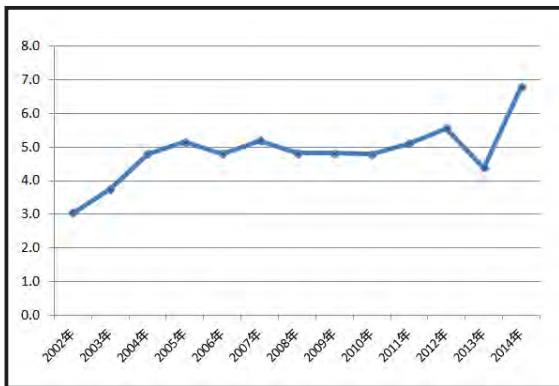


図7 miniature sheet 発行数の推移

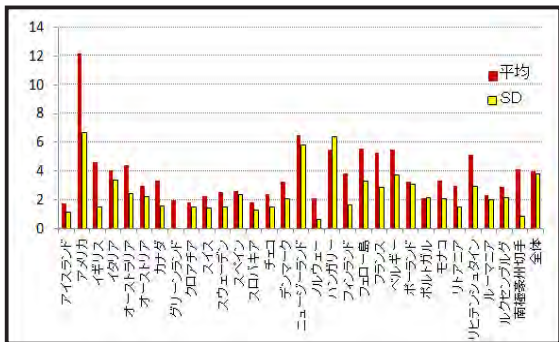


図8 miniature sheet を構成する切手平均枚数とSD

トと考えられるものから、わが国では常態化してしまっただけでなく、余白に意匠を印刷した多種切手シートまでを miniature sheet と同じ扱いにしているためもある。より具体的にみるため、図4で棒が長い国、中間、短い国のアメリカ、ニュージーランド、スペイン、アイスランドの切手枚数の割合を図示すると図9の様になる。アメリカは10以上の多種類構成シートが主体、ポルトガルは単一切手構成シート主体、そしてニュージーランドは10種以下複数切手構成シート主体ということがわかる結果であり、わが国を図示するならばほとんど単色の棒という結果

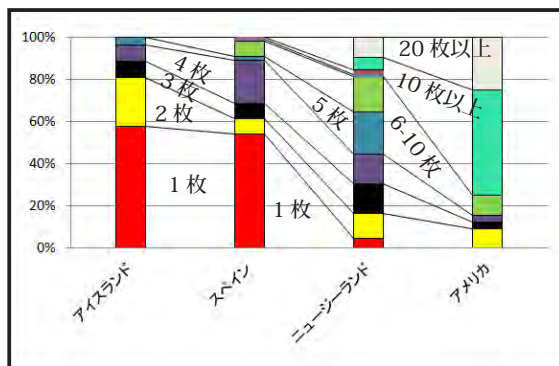


図9 miniature sheet を構成する切手平均枚数

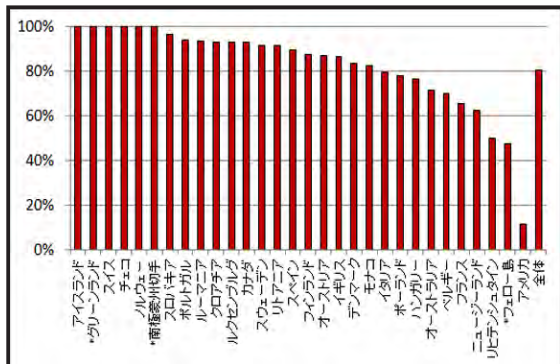


図10 5枚以下の切手の miniature sheet の割合

になるであろう。この3ヶ国だけでなくすべての国の miniature sheet の構成傾向を見るために1-5種切手構成割合を国別に比較すると図10の様になった。ほとんどの国が1~5種類構成の miniature sheet、一般的な小型シートを発行していた。特に、ポルトガル、アイスランド、スペイン、スロバキアは半数以上が1枚切手の小型シートであった。反対にアメリカ、イギリス、フィンランドは1枚切手の小型シートは少なく、イギリスは8割が4種切手構成の小型シートであった。反対に10種以上切手構成 miniature sheet (意匠部分付多種類切手、以後、意匠シートと略記)は全体としては少ないが、アメリカが異常に多く、わが国同様、他の国々と異なる切手形態であることがうかがえる。わが国の意匠シート発行と関連しているシール切手シートを整理した。スロバキアは単独切手をシール式シートにしていたのは珍しく、フィンランド、イタリア、カナダ、デンマーク等はアメリカとわが国と同じく意匠シートでグリーティング切手風のシートが発行されており、フィンランドが2008年以降少数切手構成シートも含めてシール式シートに移行しているように、徐々にシールへの傾斜が進んでいるようである。これには変形切手の発行が増えてきたことも影響している。

今回のわが国で初めて普通切手小型シートに印刷されたシリアル番号が諸外国にみられるか調べてみると、4ヶ国にみられた。どの国もすべてのシートにみられるわけではないようであった。ハンガリー、スペイン、ポーランド、ベルギーに番号が印刷されていたが、これが印刷番号を意味しているかは調べられなかった。小型シートを調べていると変形目打ちを単片切手よりも強く印象付けられる。イギリス、日本





変形目打ち  
左 スペイン, 中央  
ポーランド, 右 英国  
英国は普通切手サ  
イズに原則変形目打  
ちがみられる。

にみられる楕円以外に目立つたのがポルトガルの十字軍十字架目打である。この変形目打ちの有無も番号同様、明らかな理由の判断は付きかねる。

最後に、1000円を超える理解できないわが国の小型シート(切手帳?)の料額を考える参考になればと、1500余種の小型シートから高額のものを探した。最高料額はアメリカのWashington 2006 Expoの8\$, イギリス2011年発行Aerial Postの2 £ 78+1St ぐらいが眼につくぐらいで2000円を超える料額、売価の小型シートは無く、わが国のように極端な営利を感じるものは無かった。

外国の美しい、変わった小型シート、miniature sheet をご覧いただき、今後急増する危惧を感じる小型シートを考えて頂きたい。

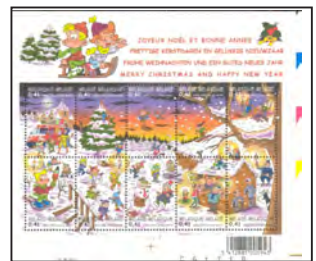
本考察に当たり、小西邦彦会員、宮鍋益治会員、慶應大学OB 郵研三田クラブ 谷口吉太郎氏から貴重な助言をいただきました。深く感謝いたします。本稿は第119回切手教室の内容、レジュメに追加、訂正をしてみました。



今回、最も高額と考えられた8\$のアメリカ小型シート



2002年ベルギー  
歴史的建物  
表示が sheet of 10 designs



2002年ベルギー  
Christmas and New Year  
miniature sheet of 10 of 10 designs



2012年スイス Brown long-eared Bat



横 10cm の大型変形目打ち切手



2007年フィンランド International Polar Year



切り取り方で切手のイメージが大きく変わる



2007年フランス Givenchy's Heart 毎年有名ブランドのheartが発行される  
Chanel, Givenchy, Ungaro Lanvin, Hermes, Baccarat 等

すべて形の異なる5種切手で構成されたのシールシート  
2011年アイスランド Reykjavik工ターボ-ル竣工



2013年 ポルトガル  
Flavours of the Air & Fire  
ドングリで味あなイベリコ豚の生ハム切手



2014年 スペイン  
Spanish Cuisine イベリア半島には料理を扱ったものが多い